

## 第 3 回都市づくり調査特別委員会での主な意見

□日時 平成 27 年 12 月 18 日（金）9：30～11：30

□場所 第二本庁舎 31 階 27 会議室

## ■プレゼンテーション

## ＜瀬田委員（プレゼンテーション）＞

- ・ 東京での人口減少は、今の時点では顕著ではないが、40 年ぐらいたつと大きく減少のペースも上がるので、将来的には重要な課題である。2040 年代付近は、人口減少の過渡期であり、一定の安定を見るのは 22 世紀ではないか。それを見据えた上で、今何をすべきかということを考える必要がある。
- ・ 時代が変わるにつれ、総合的な計画やビジョンの役割にも変化が生じている。これから求められる役割としては、「個別、縦割り政策間の矛盾の解消」、「都内の地区・地域間の人口格差を鑑みた都市サービスの公平性、平等性の担保」がある。
- ・ また、東京都のビジョンということであれば、東京都という行政区域と、東京大都市圏の関係性を考える必要がある。水、電力や食料など他の地域に頼るものも多いので、東京が他の地域に貢献できているということを目に見える形で示していくことも重要。

## ＜加藤委員（プレゼンテーション）＞

- ・ バブル期以降、急激に時代は変動しているが、社会制度は依然右肩上がりを前提とした仕組みのままとなっており、追随しきれていないギャップが今の日本社会の大きな問題の根本にある。また行政の縦割りについても、お金がない、人がないという状況で最低限のことしかできなくなったときに、どう横につなげていくのかが大きな課題である。
- ・ 防災を考える基本スタンスは、「災害の危険性を知っている」こと、「防災だけでまちづくりが成立するのではない」こと、「防災対策はコスト増ではなく付加価値の創出」であることの 3 つだと考えている。
- ・ 今後、気候変動が進み東部低地帯などの水害リスクが顕在化しないよう、大規模水害に備えた都市づくりは、今こそ布石を打つべき。
- ・ これまでの防災都市づくりは、危ないところを安全にする取組みを進めてきたが、次の時代に必要なものは、未然防止と、普通のまちが災害時に自立できるような取組みである。
- ・ さらに、災害からの復興に備えて、防災都市づくりの考え方の中に、復興のグランドデザインもしっかりと描いておくことは非常に重要である。

#### <専門委員のプレゼンテーションに関する意見交換>

- ・ 気象現象の極端化による降雨量の増加に起因する大規模水害に対して、真剣に考える必要がある。
- ・ 災害リスクの高い地域では、危険性を理解したうえで、どのように工夫して住むかを考えることがあってもよいのではないか。
- ・ 被災後の都市再構築に向けては、想定される課題を予め理解し、事前に対応できる政策を準備しておくことが重要である。

#### ■意見交換

##### <都市づくりの方向性やイメージ>

- ・ 社会の状況や変化のうちポジティブな面が強調され、高齢化に伴う郊外地区の抱える問題などへの言及が薄いのではないか。課題に対して具体的な対応を提示した上でネガティブな面についても触れるべきではないか。
- ・ 「新たな価値を生み続ける場」という表現は、特徴ある地域がモザイク状にあるという東京の特徴をよく表している。
- ・ グローバル競争の中で東京が「選択される」ことは重要であり、都市として他の都市と競争するための基盤整備や、魅力ある活動の創出は重要であるが、「選択する」主体が曖昧であり、ややわかりにくい。
- ・ これまでの時代とは違って、拡大することだけが前に進めるエンジンではないということを確認しておくべき。緑や水辺などを付加価値とする、新しいエンジンを期待したい。
- ・ 多くの課題もある中で新しい実験のできる、実験や挑戦の中で新しい価値を生み出すことを応援する都市、というメッセージが見えるとよいのではないか。
- ・ 東京を魅力ある都市として打ち出すには、民間の活動を主体とし、それを行政が多方面からフォローすることが基本。一方で民間が手を付けないところでは、人口減少下でも都市の形を保ち、魅力ある空間づくりに向け、行政によるしっかりとした対策が求められる。

##### <各地域や都市構造のイメージ>

- ・ 地域間の競争ではなく、それぞれの地域が個性を持ち、地域の資源を活用するとともに、地域間の連携において、その資源を循環させていくような都市のあり方が表現されていくとよいのではないか。
- ・ パラリンピックもしっかりと意識して、どのような身体状況であってもスポーツに参加できる、アクセスできるといったことを盛り込んでいただきたい。

- 多摩地域における「農」や「緑」と共存する生活のように、都心域においても、経済活動や観光・MICE といった大きなテーマだけではなく、そこで居住する人々の生活がどうなっているのかが表されるとよい。
- 東京では、震災や戦災をきっかけに都市の機能更新が行われてきた面もあるが、これからは、意識的にサステイナブルに、持続可能なまちにしていくという意識を持たなくてはならない。そのためには、都心に関して言えば、今までつくりあげてきた都市のストックを上手につなぎ、使いこなすことが必要である。
- 子ども、子育てに係る表現が弱いと感じる。持続可能であるために、子どもにとっての都市という視点もあるとよいのではないか。
- 緑や水辺は、都市基盤の骨格であると同時に、それらを経済活動や生活の中に取り入れ、活力が生み出される地域の将来像を期待したい。
- 個性のある商店街、低層住宅街の広がりや都心近郊にも美しい農地を有する等の特徴を生かして、欧米とは違った都市づくりを打ち出すべきである。
- 地域区分の名称については、連携や共生といった表現はこれまで東京にはなかったが、なじみやすくよい。さらにイメージを充実させる表現を模索していくべきである。